

第 6 期（2024 年度）事業報告

2025 年 4 月

【要約】

2024 年度、ちくご川コミュニティ財団は中期計画に基づき、「事業」「組織」「財源」の 3 本柱に分類された 4 つの短期アウトカムを設定し、それぞれに対して具体的なアウトプットと活動を計画・実施した。まず「事業」の柱では、休眠預金活用事業を中心に子ども若者支援、家庭支援、災害支援に取り組み、地域の民間公益活動の基盤強化を図った。

たとえば、2021 年度通常枠では校内フリースクールのモデル構築やアドボカシー活動による制度導入の動きが複数の自治体で具体化し、子どもたちの学びの選択肢が地域全体で広がった。

2023 年度の通常枠では、課題の事前評価や実行団体との連携を通じた事業設計改善が行われ、緊急枠ではアクセス困難な家庭への支援として、居場所づくりやアウトリーチ、AI チャット相談など多様な手法が展開され、短期間ながら支援体制のネットワーク化と持続可能性の芽が育まれた。

また、新たに活動支援団体として採択された事業では、CSO の人材育成や組織継承、ファンドレイジング支援等を通じて、次世代が担える組織づくりの基盤形成を進めた。

一方、独自の基金による奨学金事業では 8 名に総額 181 万円を給付し、学びを支える支援を継続した。

「組織」の柱では、公益財団法人化を目指して準備を進めたが、法改正により 2025 年度への申請延期を決定し、グッドガバナンス認証についても制度変更への対応を検討中である。加えて、プログラムオフィサー（P0）とバックオフィス（B0）の人材配置と育成を進め、P0 補佐やインターンの採用と昇格、業務評価・育成プログラムの整備を通じて、人材体制を強化した。B0 については新規採用はなかったが、業務効率化ツールの導入により機能強化を図ったほか、P0・B0 間の連携も徐々に改善され、チームとしての協働が進展しつつある。

「財源」の柱では、休眠預金活用事業に加えて、多様な財源確保に取り組んだ。冠基金の設立や、活動支援団体としての採択により約 4,990 万円、2024 年度通常枠の資金分配団体の選定により約 1 億 8 千万円の資金調達を達成したほか、マンスリー寄付は前年より 85 万円増加し 107 万 5 千円となるなど、寄付収入の拡大が見られた。また、遺贈寄付の推進としてシンポジウムを開催し、委託事業としては久留米市での実績（18 万円）を挙げた。さらに、有料の伴走支援メニューや『たまきちゃん白書』の出版準備も進め、自主事業による収益化の基盤づくりにも着手している。

これら一連の取り組みにより、ちくご川コミュニティ財団は地域の課題に対して多面的な支援を展開しつつ、組織基盤と財源の安定化に向けた重要な一步を踏み出した年となった。今後は、事業の継続と拡充、組織としての信頼性の向上、そして次世代が関われる持続可能な支援体制の構築に向けたさらなる取り組みが求められる。

【短期アウトカム、アウトプット、活動の結果について】

2024 年度に中期計画を策定し、短期アウトカムを事業、組織、財源の 3 本柱に分類し、4 個設定した。短期アウトカムの達成時期は中期計画中（1～3 年後）とし、それぞれにアウトプット、活動を計画した。2024 年度に特に注力したアウトプット、活動の結果について以下に詳述する。

「事業」の柱

【短期アウトカム 1】

子ども若者支援、家庭支援、災害支援に特化した助成、組織基盤強化、環境整備を実施することにより、民間公益活動における地域の基盤を強化する

【アウトプット 1】

1-1. 休眠預金活用事業による子ども若者支援、家庭支援、災害支援における助成、組織基盤強化、環境整備を実施している

<活動結果>

1-1-1. 休眠預金活用事業 2021 年度通常枠の実施：2021 年度通常枠「誰ひとり取り残さない居場所づくり」が 2024 年 3 月に事業完了。

一般社団法人家庭教育研究機構は、「いろいろどりの居場所とつながる支援事業」において、校内で安心して学べる“校内フリースクール”のモデルを確立。この取り組みは、公立中学校の教室を活用し、フリースクールスタッフによる常駐支援体制を構築。地域、学校の理解や取り組みへの参画のもと子どもたちが地域で 11 通りの学びの方法を選択できるようになった。本事業により飯塚市全小中学校で校内フリースクールを導入する方向で教育委員会が動いている。

NPO 法人未来学舎は、地域の関係者とともに地域で子どもたちの生きる力を育むモデルを実践。この 3 年間で延べ 118 名の子どもと保護者に関わった。他者との会話が一切できなかった児童が、半年後には同年代との関わりを持つようになった様子や、定期的に通うことで生活リズムを取り戻した事例など、のプロセスが丁寧に記録され、事業の成果が表れている。

認定 NPO 法人 箱崎自由学舎 ESPERANZA は不登校児童生徒が通うフリースクール等の民間施設に対し、通所費用を公的に支援する制度導入を目指したアドボカシー活動を実施。福岡県内 60 市町村にアンケート調査を実施したうえで、自治体首長や議員への懇談・学習会を継続し、当事者や現場の声を政策に反映する取組を進めた。

こうした活動や弊財団の多様な学びの場を保障する基金（たまきちゃん）の奨学金事業により、大野城市では 2024 年度よりフリースクール利用に対する家計補助制度が実施され、古賀市では 2025 年度からの制度導入が予算案として公表されています。また、久留米市でも利用開始時の家計支援を始めることが発表されるなど、制度導入に向けた動きが確実に広がりを見せている。

1-1-2. 休眠預金活用事業 2023 年度通常枠の実施：2023 年度通常枠「困難を抱える家庭を取り残さない仕組みづくり」は初年度が終了した。年度の初期は事前評価に注力し、課題の分析からの事業設計の改善を行なった。また、コレクティブインパクトチームの活動も行い、1～2 ヶ月に 1 回のペースで会議や研修会を実施した。弊財団と 6 つの実行団体の関係性も構築され、チームとして事業運営ができています。

1-1-3. 休眠預金活用事業 2023 年度緊急の実施：2023 年度緊急枠「子育てに困難を抱える家庭へのアクセシビリティ改善」では、単年度の事業の中で、家庭へのアクセスに特化した活動を実施する。4 月より公募を開始し、8 団体を採択。本事業は、子育てに多様な困難を抱える家庭が必要な支援にアクセスできる環境を整えることを目的に、「イベント・居場所」「アウトリーチ」「情報提供」の 3 つの柱で展開された。

フードパントリーなどの食支援、人形劇の観劇とワークショップ、子どもの夜間の居場所運営などを通じて、家庭が安心して外に出て支援に繋がる機会を創出した。また、アウトリーチでは生活用品や食料の配達、家事の家庭教師などにより、支援が届きにくい家庭への接続が強化された。さらに、情報提供の面では、AI を活用した無料相談チャットの運営や専門職へのチャット相談、子育て支援ナビブック、フレンドナースの処方箋の活用を通じて、孤立した家庭に必要な情報を届ける仕組みを整備した。

短期間ながらも各団体の連携を促進し、支援が必要な家庭と地域資源をつなぐネットワーク形成が進み、持続可能な地域支援体制の基盤づくりにつながったと考えられる。本事業において多様な繋がり方ができたことは地域社会における支援の在り方に新たな価値を提供できると考える。

1-1-4. 休眠預金活用事業による災害支援の実施：災害対応については、発災時に適宜、休眠預金の活用を検討する：事業対象地域で大規模な災害が起こらなかったため実施せず。

1-2. 休眠預金活用事業の活動支援団体として、子ども若者支援、家庭支援、災害支援における CSO の組織基盤強化、環境整備を実施している

<活動結果>

1-2-1. 活動支援団体として案件形成し、申請する：まずは、公募申請に挑戦する。申請を通して、これまで実施してきた非資金的支援のノウハウを体系化する。採択されたら、将来、実行団体として挑戦できる団体を生み出す取り組みを行う：2024 年度の公募に申請し、内定となる。3 月に契約締結し、事業が開始となる。

本事業は、筑後川関係地域で実行団体の空白地域等の子ども若者とその家庭を支援する市民社会組織（CSO）を対象とする。事業の目的は「CSO が次世代の担い手を確保し、中核リーダーを育て、事業継承できる組織にするために、事業を成長させ、成果を発信し、ファンドレイジングを強化することで、次世代が仕事として関われる財源を確保する。」である。

まず、CSO が直面する人材不足を解消するため、JICA 海外協力隊の OB0G 会と連携したマッチング会やボランティア・プロボノの紹介等を行い、次世代の担い手との出会いを創出する。業務リストの作成、マニュアル化など組織内の人材育成の仕組みも整えていく。

事業面では、PCM（プロジェクトサイクルマネジメント）を活用した事業設計支援や、NP0 マネジメント診断による組織診断を実施し、現状の課題を明確化した上で具体的な個別伴走支援計画を立案する。また、事業の成果を発信するため、広報物の制作支援や SNS・メディア活用の伴走支援を実施し、CSO が地域社会に対して活動の意義を伝えられるようにする。これにより、共感に基づく寄付収入の増大を図り、財源を成長させ、次世代が生業として活動に関われることを目指す。

次に、中核リーダーの育成を重点課題とし、リーダー層へのスキル移転や権限委譲を促進する。これ

により、代表者への過度な依存を減らし、次世代の担い手が主体的に事業を運営できる体制を構築する。特に、組織のミッションやビジョンを次世代に共有し、事業継承を円滑に進めるための支援を行う。さらに、地域円卓会議やオンラインコミュニティを活用し、CSO 同士や地域の関係者との連携を促進する環境整備も行う。

事業終了後 5 年後に CSO に人材の循環が生まれ、組織・事業・財源の持続可能性が向上することで、子ども若者に関する社会課題が解決されやすい地域となっていることを目指す。

1-2-2. 活動支援団体として事業を実施する：2024 年 3 月に契約締結し、公募要領の作成等を中心に事業を進めた。

1-3. 独自プログラムにより子ども若者支援、家庭支援、災害支援における助成事業を実施している

<活動結果>

1-3-1. 子ども若者基金による助成、組織基盤強化、環境整備の実施：休眠預金活用事業の運営によりリソースを割けず、実施せず。

1-3-2. 災害支援基金による助成、組織基盤強化、環境整備の実施：事業対象地域で大規模な災害が起らなかったため実施せず。

1-3-3. 多様な学びの場を保障する基金による奨学金事業の実施：奨学生 8 名を選定し、一人あたり平均 1 万 9 千円を月額で給付、合計 181 万円。適宜、奨学生、保護者からのヒアリングを行い。奨学金給付により安心を届けていることを確認できた。2 月にはたまきちゃんお誕生日会を開催。

1-4. 独自プログラムとして、CSO の組織基盤強化事業、環境整備事業を実施している

<活動結果>

1-4-1. CCF 組織基盤強化メニューの実施：株式会社に対し、クラウドファンディングの伴走支援を 1 件実施。

1-4-2. CCF 環境整備メニューの実施：休眠預金活用事業の運営によりリソースを割けず、実施せず。

「組織」の柱

【短期アウトカム 2】

公益財団法人・グッドガバナンス認証団体として更なるガバナンス・コンプライアンス体制の強化ができ、地域社会から信頼されている

【アウトプット 2】

2-1. 公益財団法人化が実現している

<活動結果>

2-1-1. 公益財団法人化のための申請作業

・今年度中の公益財団法人化を実現し、組織体制の強化、財源の強化に繋げる：公益法人法の改正により外部理事・監事が必要となり、2024 年度中の申請は行わず、2025 年度に申請、公益法人化を目指すこととなる。

2-2. グッドガバナンス認証の更新ができています

<活動結果>

2-2-1. 規定類の整備状況のチェック：公益法人申請に伴い、一部規程類の追加、改訂を実施。

2-2-2. 規定類の運用状況のチェック：理事会等で運用状況をチェックした。

2-2-3. 更新のための申請

- ・来年度の更新に向けて、ガバナンス・コンプライアンス体制をチェックリストをもとに確認する：認証制度の変更があったため更新自体がなくなる。新制度への移行に向けて検討を進める。

【短期アウトカム3】

「プログラムオフィサーやバックオフィスに適材適所の人材確保がなされ、かつ業務効率が改善されることにより、グループ・ダイナミクスが起きている」

【アウトプット3】

3-1. P0 人材が確保でき、育成の仕組みができています

<活動結果>

3-1-1. P0 人材採用のための活動：P0 補佐 2 名を新規雇用（非常勤）。P0 インターンを 1 名採用。2025 年度 4 月から 1 名が P0 補佐から P0 へ昇格、P0 インターンから P0 補佐へ昇格し、P0 4 名、P0 補佐 4 名体制となる。

3-1-2. P0 評価プログラムの作成：JANPIA の P0 に求められる 10 の力を元に P0 人材の能力評価を実施。

3-1-3. P0 人材育成プログラムの作成：P0 業務リストを作成し、リストに基づいた OJT の仕組みが構築されてきている。

- ・休眠預金活用事業に合わせて、新規の P0 を複数名採用する。今年度中に育成プログラムを作成し、試験的に実施する。

3-2. B0 人材が確保できている

<活動結果>

3-2-1. B0 人材採用のための活動（即戦力人材の確保）：新規採用はなし。P0 が B0 業務も行うことで機能強化を図る。

3-2-2. B0 業務ツール（アウトソーシング）の検討・活用：奨学金事業において kintone を導入。業務効率化を図る。

- ・即戦力となる B0 人材を採用する。

3-3. P0・B0 人材がチームとして業務を実施している

<活動結果>

3-3-1. P0 チームの組成・運用：P0・P0 補佐 8 名体制を確立。

3-3-2. P0・B0 連携の仕組みづくり：仕組みづくりまでは実施できていないが、コミュニケーションの量は増加し、以前より連携がスムーズになっている。

- ・P0、B0 人材の連携を図る取り組みを実施する。

「財源」の柱

【短期アウトカム4】

休眠預金活用事業による財源確保とそれ以外の財源として、寄付収入の増加、遺贈寄付の推進、自主事業による収入、自治体からの委託事業等の獲得により、財源の多様化と安定化を果たす

【アウトプット4】

4-1. 休眠預金活用事業（2021 年度通常枠、2023 年度通常枠・緊急枠）による財源の確保と事業ごとの自己資金の調達ができている

＜活動結果＞

4-1-1. 通常枠事業ごとの基金の設立：2021 年度事業に関連して生田幸平・裕子基金（冠基金）を設立。

4-1-2. 通常枠事業（テーマ）ごとのマンスリーサポーターの獲得：実施できず。

- ・各事業に入れる自己資金を調達する。2021 年度事業が最終年度のため、優先的に自己資金調達の活動を行う。

4-2. 休眠預金活用事業の活動支援団体に選定されている

＜活動結果＞

4-2-1. 活動支援団体として案件形成・申請し、非資金的支援に関わる財源を獲得する：内定し、総額約 4,990 万円の資金調達に成功。2024 年度通常枠の資金分配団体にも選定され、3 年間で 1 億 8 千万円の助成金を調達した。

- ・採択により、次年度を見越した P0 人件費の確保を目指す。

4-3. 寄付収入が増加している

＜活動結果＞

4-3-1. CCF マンスリーサポーター制度の改善に関わる活動：マンスリーサポーター募集のキャンペーンを実施し、継続寄付が 2023 年度から 85 万円増加し、107 万 5 千円となった。

4-3-2. 法人寄付獲得のための活動：具体的な活動は実施できず。

- ・単発寄付、マンスリーサポーターの獲得により、運営への寄付を増加させることで、経営の安定を目指す。

4-4. 遺贈寄付の獲得、もしくは遺贈寄付につながる案件がある

＜活動結果＞

4-4-1. 遺贈寄付推進のための活動：遺贈寄付シンポジウムを 9 月に開催。

- ・イベント等の実施により、今年度中に遺贈寄付 1 件以上を目指す。

4-5. 行政等からの委託事業を獲得している

＜活動結果＞

4-5-1. ガバメント・クラウドファンディングについての委託事業等：久留米市の委託事業を実施し、18 万円の委託料を調達。

4-5-2. 企業連携についての委託事業等：実施できず。

4-5-3. みんなくるとの協働による資金の獲得：特になし。

- ・今年度中に GCF、企業連携に関する委託を獲得する

4-6. 自主事業による収入がある

<活動結果>

4-6-1. 有料の伴走支援メニューの実施：クラウドファンディングの伴走支援が1件あり。

4-6-2. 出版物の発行・販売：たまきちゃん白書の発行に向け、作成を開始した。

伴走支援メニューの有料化により、今年度中に数十万円の収入を獲得する。

令和6年度 正味財産増減表
自令和6年4月1日 至令和7年3月31日

(単位：円)

科	目	令和5年度実績	令和6年度実績	増 減
1. 一般正味財産の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益		28	1,621	1,593
基本財産受取利息		28	1,621	1,593
特定資産運用益		76	4,917	4,841
特定資産受取利息		76	4,917	4,841
事業収益		0	0	0
受託事業		0	0	0
その他の事業収入		0	0	0
受取補助金等振替額	(a)	44,915,451	138,150,485	93,235,034
国庫補助金		0	0	0
民間助成金		44,915,451	138,150,485	93,235,034
寄付金振替額	(b)	7,203,522	5,374,296	-1,829,226
子ども若者応援助成		5,506,679	2,395,214	-3,111,465
災害支援		1,186,843	110,165	-1,076,678
たまきちゃん		510,000	2,455,802	1,945,802
生田幸平・裕子基金			413,115	413,115
財団応援寄付		1,021,572	1,333,000	311,428
財団応援寄付		1,021,572	1,333,000	311,428
雑収入		318,809	271,267	-47,542
受取利息		9	366	357

雑収入		318,800	270,901	-47,899
雑損失		0	70	70
支払利息		0	70	70
営業外損益		318,809	271,197	-47,612
経常収益 計	(c)	53,459,458	145,135,516	91,676,058
(2) 経常費用				
事業費		51,377,670	142,889,994	91,512,324
役員報酬		1,944,000	1,912,000	-32,000
給料手当		14,418,481	18,801,272	4,382,791
法定福利費		767,491	2,279,821	1,512,330
委託費		494,500	391,400	-103,100
旅費交通費		611,732	1,662,512	1,050,780
旅費交通費(通勤手当)			575,541	575,541
通信費		193,360	263,271	69,911
助成金		30,081,458	109,557,235	79,475,777
支援金		0	1,958,345	1,958,345
会議費		77,410	558,334	480,924
地代家賃		505,000	540,000	35,000
水道光熱費		126,498	135,555	9,057
消耗品費		1,754	20,330	18,576
租税公課		11	751	740
研修費		125,240	328,265	203,025
事務用品費		106,977	314,601	207,624
事務用備品費		133,531	139,700	6,169
事務用消耗品費		0	163,952	163,952
事務機リース料		0	58,102	58,102

広告宣伝費		1, 120, 222	1, 877, 245	757, 023
支払手数料		498, 499	971, 775	473, 276
振込手数料		32, 266	59, 513	27, 247
諸会費		108, 000	145, 375	37, 375
新聞図書費		31, 240	63, 030	31, 790
警備料		0	108, 009	108, 009
雑費		0	4, 060	4, 060
管理費		4, 157, 774	3, 153, 605	-1, 004, 169
役員報酬		336, 000	368, 000	32, 000
給料手当		1, 122, 967	1, 480, 869	357, 902
福利厚生費		6, 720	5, 282	-1, 438
法定福利費		1, 029, 329	193, 527	-835, 802
委託費		19, 126	0	-19, 126
研修費		0	1, 500	1, 500
旅費交通費		645, 334	21, 123	-624, 211
旅費交通費(通勤手当)		0	234, 477	234, 477
通信費		211, 469	179, 104	-32, 365
交際費		6, 667	6, 325	-342
会議費		41, 126	17, 537	-23, 589
地代家賃		95, 000	60, 000	-35, 000
水道光熱費		25, 797	30, 744	4, 947
消耗品費		7, 918	4, 899	-3, 019
租税公課		58, 874	22, 101	-36, 773
事務用品費		28, 165	16, 026	-12, 139
事務用消耗品費		3, 008	21, 319	18, 311
事務機リース料			6, 455	6, 455

広告宣伝費		81,584	153,927	72,343
支払手数料		205,152	188,390	-16,762
振込手数料		57,786	85,804	28,018
諸会費		41,000	15,000	-26,000
警備料		126,720	22,561	-104,159
雑費		8,032	18,635	10,603
経常費用計	(d)	55,535,444	146,043,599	90,508,155
当期一般正味財産増減額	(e) = (c) - (d)	-2,075,986	-908,083	1,167,903
一般正味財産期首残高	(e)	4,783,736	2,707,750	-2,075,986
一般正味財産期末残高	(f) = (e) + (d)	2,707,750	1,799,667	-908,083

2. 指定正味財産の部				
科 目		令和5年度実績	令和6年度実績	増 減
指定正味財産期首残高(休眠預金)		9,294,115	141,526,654	132,232,539
受取補助金等		177,147,990	98,843,273	-78,304,717
指定正味財産期末残高	(g)	141,526,654	102,219,442	-39,307,212
当期指定正味財産増減額	(h)	44,915,451	138,150,485	93,235,034
指定正味財産期首残高(子ども若者)		9,475,917	4,039,238	-5,436,679
受取寄付金等		70,000	29,000	-41,000
指定正味財産期末残高	(i)	4,039,238	1,673,024	-2,366,214
当期指定正味財産増減額	(j)	5,506,679	2,395,214	-3,111,465
指定正味財産期首残高(災害支援)		0	272,920	272,920
受取寄付金等		1,459,763	38,578	-1,421,185
指定正味財産期末残高	(k)	272,920	201,333	-71,587
当期指定正味財産増減額	(l)	1,186,843	110,165	-1,076,678

指定正味財産期首残高(たまきちゃん)		0	3,331,000	3,331,000
受取寄付金等		3,841,000	683,000	-3,158,000
指定正味財産期末残高	(m)	3,331,000	1,558,198	-1,772,802
当期指定正味財産増減額	(n)	510,000	2,455,802	1,945,802
指定正味財産期首残高(生田幸平裕子基金)			0	0
受取寄付金等			6,000,000	6,000,000
指定正味財産期末残高	(o)		5,586,885	5,586,885
当期指定正味財産増減額	(p)		413,115	413,115
(3) 正味財産期末残高	(f) (g) (i) (k) (m) (o)	151,877,562	113,038,549	-38,839,013

(4) 受取補助金等及び受取寄付金				
科 目		5 年度実績	6 年度実績	増 減
受取補助金等		177,147,990	98,843,273	-78,304,717
国庫補助金		0	0	0
民間助成金		177,147,990	98,843,273	-78,304,717
受取寄付金		6,392,335	8,083,578	1,691,243
一回寄付		1,794,572	6,448,000	4,653,428
継続寄付		225,000	1,075,000	850,000
クラウドファンディング		3,330,000	522,000	-2,808,000
遺贈寄付		1,000,000	0	-1,000,000
街頭募金		42,763	38,578	-4,185

令和6年度 貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

科 目		当年度期首	当年度期末	増 減
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金		0	0	0
小口現金		0	0	0
当座預金		167,777	317,424	149,647
普通預金		2,099,615	545,442	-1,554,173
未収入金	(g)		6,000	6,000
前払費用	(g)	103,711	334,084	230,373
貯蔵品	(g)	5,166	8,894	3,728
流動資産合計		2,376,269	1,211,844	-1,164,425
2. 固定資産				0
(1) 基本財産				0
普通預金		3,001,112	3,002,486	1,374
基本財産合計	(a)	3,001,112	3,002,486	1,374
(2) 特定資産				0
寄付受入預金(子ども若者・災害支援・たまきちゃん・生田基金)	(b)	7,643,158	9,019,440	1,376,282
休眠預金等活用事業助成金	(c)	141,526,654	102,219,442	-39,307,212
特定資産合計		149,169,812	111,238,882	-37,930,930
(3) その他固定資産		0		0
敷金		0	0	0
その他固定資産合計		0	0	0
固定資産合計		152,170,924	114,241,368	-37,929,556
資産合計	(d)	154,547,193	115,453,212	-39,093,981
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払費用		2,081,151	2,163,617	82,466
未払金		100	0	-100
短期借入金		0	0	0
預り金		583,380	246,046	-337,334
前受金		5,000	5,000	0
流動負債合計		2,669,631	2,414,663	-254,968
2. 固定負債			0	
			0	0
固定負債合計		0	0	0
負債合計	(e)	2,669,631	2,414,663	-254,968
				0
III 正味財産の部				0
1. 指定正味財産		149,169,812	113,275,238	-35,894,574
基本財産運用益		0	0	0
受取助成金		141,526,654	105,191,660	-36,334,994
受取寄付金		7,643,158	8,083,578	440,420
(内、基本財産への充当額)		(0)	(0)	0
(内、特定財産への充当額)		(149,169,812)	(111,238,882)	-37,930,930
2. 一般正味財産				0
一般正味財産合計	(f)=d-b-c-e	2,707,750	1,799,667	-908,083
(内、基本財産への充当額)		(0)	(0)	0
(内、特定財産への充当額)		(0)	(0)	0
正味財産合計	(b)+(c)+(f)	151,877,562	113,038,549	-38,839,013
負債及び正味財産合計 (CFベース)	(c)+(f)-(g)+(e)	154,438,316	115,104,234	-39,334,082

財 産 目 録

(2025年3月31日現在)

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団

単位：円

貸借対照表科目				金 額
流動資産				
現金預金	現 金	現金による寄付		0
	小口現金			0
	当座預金	ゆうちょ銀行一七九支店 (0172112)		317, 424
	普通預金	三菱ＵＦＪ銀行久留米支店 (0232415)		13, 007
		福岡銀行久留米営業部 (3017002)		47, 021
		筑邦銀行日吉町支店 (3091966)		311, 400
		ゆうちょ銀行七四八支店 (8822715)		174, 010
		ゆうちょ銀行七四八支店 (9433751)		4
			《普通預金計》	545, 442
		《現金預金計》	862, 866	
前払費用	R6年概算保険料、4月分家賃・警備料		334, 084	
貯蔵品	切手・印紙		8, 894	
未収入金	寄付金（4月入金2件）		6, 000	
流動資産合計				1, 211, 844
固定資産				
基本財産	普通預金	西日本シティ銀行東久留米支店 (3089334)		3, 002, 486
特定財産	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3094730)	寄付受入預金 (子ども若者基金)	1, 673, 024
	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3117536)	寄付受入預金 (災害支援基金)	201, 333
	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3119657)	寄付受入預金 (たまきちゃん)	1, 558, 198
	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3123931)	寄付受入預金 (生田基金)	5, 586, 885
	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3099528)	休眠預金活用事業 (2020年通常枠)	58, 782
	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3107834)	休眠預金活用事業 (2021年通常枠)	5, 755, 585
	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3118182)	休眠預金活用事業 (2023年通常枠)	6, 482, 424
	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3120756)	休眠預金活用事業 (2023年緊急枠)	8, 256, 891
	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3127717)	休眠預金活用事業 (2024年通常枠)	64, 653, 320
	普通預金	筑邦銀行日吉町支店 (3128004)	休眠預金活用事業 (活動支援団体)	17, 012, 440
固定資産合計				114, 241, 368
資産合計				115, 453, 212
流動負債	未払費用	3月分給与・法定福利費		2, 163, 617
	前受金	特非) YNF、4月分倉庫料		5, 000
	預り金	源泉徴収・特非) YNF他		246, 046
流動負債合計				2, 414, 663
固定負債				0
固定負債合計				0
負債合計				2, 414, 663
正味財産				113, 038, 549

財務諸表に対する注記

2025.4.1.

(1/2)

1. 重要な会計方針

(1) 「公益法人会計基準」を採用しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

2. 基本財産及び特定財産の増減額及びその残高

基本財産及び特定財産の増減額及びその残高は、次のとおりであります。

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	3,001,112	1,374	0	3,002,486
特定資産				
休眠預金受入預金	141,526,654	98,843,273	138,150,485	102,219,442
子ども若者基金	4,039,238	29,000	2,395,214	1,673,024
災害支援基金	272,920	38,578	110,165	201,333
たまきちゃん	3,331,000	683,000	2,455,802	1,558,198
生田基金	0	6,000,000	413,115	5,586,885
合 計	152,170,924	105,595,225	143,524,781	114,241,368

3. 減価償却すべき資産

減価償却すべき資産はありません。

4. 担保に供している資産

担保に供している資産はありません。

5. 保証債務等の偶発債務

保証債務等の偶発債務はありません。

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

今年度受けている補助金等は次の通りであります。

補助金の名称等	交付者	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
休眠預金助成金	一財)日本民間 公益活動連携 機構	141,526,654	98,843,273	138,150,485	102,219,442

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりであります。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
民間助成金の事業使用による振替額	138,150,485
寄付金振替額	5,374,296
(子ども若者・災害支援・たまきちゃん・生田基金)	

8. 重要な後発事象

重要な後発事象はありません。

以上